からしだね

vol.46

2023 年 9 月

社会福祉法人ベテスタでは継続して全施設の感染症対策を実施しています

与える福祉ではなく、その人にとって必要なことをその人の自立に向けて支援する

社会福祉法人ベテスタ こいしろの里 広報誌

Public Information of Social corporation Betesta koishironosato

夏祭り

今年は８月２６日（土）に夏祭りを行いました。今回は、コロナ禍以降初めてご家族の方々に参加していただきました。

職員は本番当日に向けて各担当部署の準備をしてきました。今回は「射的」、「千本引き」の屋台を中心に室内での夏祭りを企画しました。前日から準備を行い、やぐらを組み、会場準備に力をいれました。飾りつけには夏祭り前に余暇で飾りつけの作成を利用者さんと行い、貼り絵を多く作成してもらいました。そのおかげで賑やかな飾りの会場となりました。

当日午前中は盆踊りの練習を中心に行いました。その後利用者さん・職員・実習生ら関係者全員が浴衣や甚平に着替え、ご家族の方々を迎える体制が整い祭りが開催されました。

初めに全員で集合写真を撮影しました。長年イベント事の最初には集合写真を撮影しており、利用者さんと職員のコンビネーションでスムーズに撮影することができました。

理事長の挨拶のあと、祭りの熱が上がったところで食べ物屋台、イベント屋台が開始されました。利用者さんは各々が好きな屋台に繰り出して行きました。屋台のご飯に舌鼓をうつ利用者さん、射的に集中して景品を狙い撃ちする方と様々な楽しみ方をされていました。

次にメインイベントである盆踊りです。定番の『炭坑節』。『アラレちゃん音頭』『ズンドコ節』『これから音頭』と多彩な曲目で楽しみました。利用者さんや職員もやぐらの輪の中に入り、一緒に踊りました。その時の一体感は忘れることができません。練習をした成果が存分に発揮されていたように思います。全体的に利用者さんも高齢化して来ているため今後はより安全に配慮したやり方も必要となってくるようにも感じました。その中で今までと変わらず楽しんでもらうために職員一同さらに考えて取り組んでいこうと思います。

最後に施設長による終了の挨拶があり、夏祭りはフィナーレを迎えました。このイベントが進行している間に、各屋台では職員さんから焼きそば・たこ焼き・からあげ・フルーツポンチなど趣向を凝らした食べ物を提供し、好評を博していました。

今回はご家族の方々が多数参加して下さり大変盛り上がりました。しかし、その一方で職員全員同士の連携がうまくいかない場面や準備不足があった部分もありこれからの課題も多くあることを思い知りました。今回の夏祭りに限らずこれからのイベントにもこの経験を生かしていくべきだと感じました。これからも職員一同力を合わせてがんばります。

支援員　倉井 祥基

8月26日に夏祭りを開催しました。今年は新型コロナウイルスが落ち着いてきた為、3年ぶりに保護者の方を迎えての夏祭りになり多くの方に参加していただくことができました。前日から夏祭りの会場準備をしました。利用者さんと一緒に作った飾りで会場を華やかにしました。利用者さんも笑顔で準備を手伝ってくれ、楽しみにしている様子が見られていました。当日はみんな甚平を着用し時間までワクワクして待っていました。12：00から開始し、屋台で焼きそば、から揚げ、たこ焼き、フルーツポンチを提供し、飲み物はジュースがありました。ゲームは射的、千本引きを用意させていただき、開始と同時に利用者さんは好きなところへ保護者の方や見守りの職員と一緒にそれぞれ行っていました。屋台の食事はみんなおいしそうに食べられており、「お腹いっぱい」とみんな言われていつもと違う食事で満足されている様子でした。ゲームの射的は的を鉄砲で撃って倒してもらいましたが、みんな上手に撃って見えほとんどの方が的を倒していました。倒せたら景品として缶ジュースをプレゼントされ、喜んでいました。

千本引きでは紐の先にお菓子がつけてあり何本かある紐から好きなものを選んで引っ張ってもらい、上にあがったものを景品として渡しました。利用者さんによってはなかなか理解するのが難しく紐を引っ張る動作ができない方もみえましたが、職員が一緒に行い参加してもらうことができました。お菓子と缶ジュースはその場で食べていただき、おなかいっぱいで残されていた方もいましたが満足そうにされていました。ゆっくり過ごしていただき、14 時頃から盆踊りをしました。7 月終わり頃から毎日ダンスの時間を利用し練習をしてきた成果もあり開始のアナウンスがあると徐々にやぐら前に集まりだして、曲が始まると踊りだしました。最初は人数が少なかったですが、音楽が鳴ると職員や保護者の方と一緒に盆踊りを笑顔で楽しそうに踊っていました。盆踊りの後は保護者の方と別れて食堂でアイスクリームを食べて終了しました。夏祭りが終わると疲れた様子もありましたが、笑顔もみられてよかったです。準備は大変でしたが、利用者さんの笑顔がみられ、楽しんでもらえることが職員にとって一番うれしいことなのでとてもよかったです。こらからも楽しんでもらえるようなイベントをたくさんしていきたいと思います。

支援員　辻 知早

【夏の外出と花火】

　今年も暑い夏が終わろうとしています。蝉の鳴き声がだんだんにぎやかになるとともに
利用者のみなさんの気持ちも夏真っ盛りに夏のお出かけが待ち遠しくなっているのが支援員によく伝わりました。そんな楽しまれた日の出来事を記したいと思います。

　玉城にある「さんておーる食堂」にみんなで外出しました。
車にみんなで乗ると会話も自然と盛り上がりました。
「ドライブ楽しい」「ここしっとる」「どこいくんかな」
などなど。
さんておーる食堂に到着すると利用者さんの気持ちが昂り嬉しそうなのが支援員にとても伝わりました。
そこではケーキとジュースを召し上がられました。
「おいしいわ」「きれいなとこやな」
と会話をされながらおいしそうに召し上がられました。

　また別の日には「道の駅奥伊勢おおだい」に出かけました。
やはり外出は利用者さんにとっては特別な行事でありいつもに増して笑顔が増えます。
「きょうはどこいくの？」「ドライブ好きやわ」と車中では楽しい会話が飛び交いました。
目的地に着くまでにも「ここ見たことある」「ここしっとるよ」と支援員にも笑顔で話されました。
道の駅ではソフトクリームを購入しみんなでたべました。
「つめたいわー」「あまいなー」「また食べたい」
と利用者さんにとって特別なドライブがソフトクリームの登場で特別感がパワーアップしたように感じられました。

夏は花火だ！ということで利用者さんと支援員で施設敷地内で花火を行いました。
手持ちの花火を利用者さんに持ってもらい楽しんでもらいました。
最初は恐る恐るの利用者さんが多かったですが花火に火が付ききれいな火花が舞いだすと、
「わー」「すごい！」と声があがりました。
利用者さんそれぞれに好きな花火があるようで
「この花火好き」「これしたい」
という声が聞こえていました。
最後には打ち上げ花火を行いました。
花火から利用者さんに離れてもらい支援員が打ち上げる花火を楽しんでいただきました。
連続の花火が上がると利用者さんは歓声をあげ夜空に上がる花火を眺めてみえました。
大きな花火があがると「すごい！」という声があちらこちらから聞こえました。
そして最後はみんなで片づけをしました。
片づけの間も「またしよな」「たのしかった」と支援員と話される利用者さんもみえました。
外出と花火で夏を満喫されて利用者さんはとてもいい笑顔でした。

支援員　中西 豊